

話し言葉のやさしい日本語の活用促進に関する会議（第2回）議事概要

1 日 時

令和4年9月29日（木）午後6時00分から午後9時00分まで

2 場 所

外国人在留支援センター（ウェブ会議システムを使用して開催）

3 出席委員

（委員）岩田委員、関根委員、ダン委員、新居委員、平田委員、村田委員、山脇委員

（事務局）出入国在留管理庁：君塚在留管理支援部長

在留支援課

文化庁：国語課

4 議 事

開 会

議 事

留意事項（案）に関する意見交換

閉 会

5 発言概要

○留意事項（案）全体に関する意見及び「はじめに」についての発言内容

【委員】

「はじめに」が長くて、「おわりに」が少ないような印象を受けた。あとはコラムなども入ってくるとバランスが良くなると思う。

やさしい日本語の趣旨に照らして、文章を分かりやすく補うための表やグラフなどを、可能な範囲で掲載していただければと思う。

【委員】

全体的な印象としては、後半の留意事項のポイントが一番大事だと思うが、なかなかそこに到達しないような印象があったことから、この後に議論できればと思う。

【委員】

私も同じような印象を受けた。我々が今回一番伝えたいのは、第3で留意事項になっている話し方、話すときの意識とかマインドの部分についてである。

そこまでになかなかたどり着かない。経緯や前提のデータなどを置かなければいけないのなら、本当に言いたいことは、冊子や別紙など一枚ものにまとめたらいと思う。まだ

たたき台だったので、取りあえず書けることを全部書いたと思うが、「はじめに」のところが長かったので、整理して経緯を伝えた方がよいと思った。

【委員】

成果物がウェブ上での公開であれば、現状の「はじめに」の分量も許容範囲ではないか。

【委員】

余りメインまでの頭が重たいのは良くないと思っている。圧縮できるのであれば短くするとか、留意事項のポイントを表紙にしてみるとかはいかがか。

【委員】

私たちはやさしい日本語を推進する立場なので、やさしい日本語の大原則である言いたいことを一番最初にはっきりと書くというような視点をもって作ったものとしては、「はじめに」、「第1」及び「第2」も全体的にページ数を減らすことができればよいと思う。

【委員】

私も「はじめに」は短い方がよいと思う。

【委員】

長い引用があるところは圧縮して、なるべくエッセンスを置いていった方が望ましい。どうしても引用したい文章があるのであれば、巻末に経緯などが分かる参考資料を付すというやり方もあると思う。

○第1「やさしい日本語の普及の現況」についての発言内容

【委員】

文化庁の「国語に関する世論調査」は、前回も載せているが、興味深い数字であると思っている。我々が今から作成するものを初めて見た人に、興味を持ってもらうためにもよいデータだと思う。ただ、文章でここまで細かく書く必要があるかは一考の余地があると思う。データなどはグラフ等で表現すれば、文章を少なくすることができる。

【委員】

要するにまだ認知度が低いということを伝える意味があるということか。しかし、世代別とか、細かく書いているので、去年の報告書で載せたら今年は少なめでよいと思う。

【委員】

この第1に関しては、図とかグラフを使っていただきたい。

ほかにも今後調査を行った場合は在日の外国人の日本語レベルについて追加してほしい。もし初級、中級レベルの外国人がたくさんいると分かれば、もっと、やさしい日本語の必要性が見えてくると思う。

【委員】

我々が「どんどんやさしい日本語を使ってください、話していきましょう。」と言って

いく上で、それを一般の人がどれだけ知っているのかはすごく重要な指標で、一般に知られていないと使うことに躊躇するし、それは書き言葉だったら発出して終わりかもしれないが、特に話すことについては、周りがしている、つまり話す環境があるかどうかというところにすごく関わってくる。本文は短縮して載せてよいと思う。

【委員】

「2」はグラフ等を使っただけであれば重要な調査で、今回のものを作るに資するデータだと思うので、是非載せていただきたい。「3」はどういう趣旨で載せているのかが分からなかったので、削除してもよいのではないか。

自治体でどれだけやっているということ載せることが、その後の流れにどうつながっていくのかが見えなかった。意図があったら説明いただきたい。

【事務局（文化庁）】

全67自治体のうち61の自治体が現在「やさしい日本語に関するガイドライン」を活用しているところ、6自治体はまだ取り組んでいないという啓発である。今からしっかりと取り組んでいただきたいということで掲載をさせていただいた。

【委員】

そういう趣旨であれば小さく載せるということであればよいと思う。例えば話し言葉の研修をやっている自治体は少ないとか、そのようなデータであればここに載せるというのは非常に大きいと思う。

【委員】

この「3」を掲載する目的が取組を促進するための啓発であるならば、冊子の中には記載せず、冊子を自治体等に周知する時の通知文に記す方が、効果があるかもしれない。

【委員】

「2」の「在留外国人に対する基礎調査」に国籍別のデータを入れてほしい。なぜかという、これまで外国語で対応したいと考える職員が多かったところ、在留外国人が多国籍化したことにより、英語・中国語・韓国語などのこれまでメインとして対応している言語だけではカバーできない人たちが増えたことを見せることができる。そうすれば、やさしい日本語の普及が必要だと伝えることができる。

【委員】

「3」に関して、これは載せなくてもよいという意見も出ているがどうか。このぐらいなら短いし、載せてもよいのか、留意事項に早くたどり着くために、削れるところは削っていかうという考え方がよいのか。むしろここに載せるのではなくて、周知するときにアピールしたらどうかという意見もあった。

【委員】

前回のガイドライン同様、今回も文字はほぼ使わずに、世論調査と外国人調査と今回の

自治体調査のグラフが並んでいるコーナーを作ると、見る人の目を引くとは思いますが、余り場所を取らない書き方はできると思う。例えば、世論調査の話はみんなが知らないということと若い人は特に知らないと、この2つだけ伝わればいいので、文字はほぼなくてもグラフでいけると思う。

【委員】

誰もが出た順番に上からガイドラインを読んでいくとは限らないことも頭に入れておく必要がある。書き言葉から順番に読んでいこうというよりも、検索をかけて、話し言葉が先に出てきたらここから読む人もいることを少し配慮した上で、バランスよく入れるという視点も持ちながら、これをガイドラインとして作る必要があるのかと、そこを配慮する必要があると思う。

【委員】

前置きが長いというのはそんなに心配しなくてもいいということか。

【委員】

前置きの件は短くしたらいいし、このグラフの文章が短くなって、説明文ではなくてグラフを載せる形でも、表現方法はそれでいいと思う。ただ、前と重複しているからというだけの理由で削っていくのは、この「留意事項」から読み始める人のために不足する情報があってはいけないという話であり、グラフを作るときの選ぶ選定理由のところにそこを留意して、文字ではなくグラフでいこうというのは賛成である。

【事務局】

「国語に関する世論調査」であれば、20代で認知率が低くなっているところがあるので、こちらは、年代別のグラフを載せる。あるいは2番目の「在留外国人に対する基礎調査」のところは日本語能力の問いに対して、幅広い話題について自由に会話ができると回答した割合が最も高く23.9%になっているとか、日本語の会話がほとんどできないと回答した割合が3.4%という形で、日本語に対する理解というものが高まってきて、日本語というものがかなり主流になってきていることが出ているので、そのような点をグラフにしていきたい。

【委員】

「在留外国人に対する基礎調査」の国籍別のデータを入れることに関して、前回のガイドラインに、多国籍化を図示化しているようなものがある。これをモデルにして、そのまま同じようなものを使えばいいと思う。

【委員】

外国人の日本語レベルや国籍別のデータを何らかの形で拾うことに賛成。

この会議の後半では研修の在り方が議題となるが、その際にどのような外国人を（やさしい日本語の）ターゲットとするかは切り離せない話となる。外国人の現状については、

後につながる布石としても何らかの形で拾っておいた方がよい。

○第2「やさしい日本語の普及に当たっての視点」についての発言内容

【事務局】

項目の順番について議論いただければと思う。

【委員】

在留外国人に対してという流れで来ているので、外国人以外とのコミュニケーションにも使えるというのは、補足的なものということで最後の方がよい。

あとは「増加・多様化」というところが一番であるのと、外国人以外というのも最後にしたい。

【委員】

私の順番の提案は、とにかく在留外国人が増えているというところが最初にくると話の流れとしていいということと、やさしい日本語は、そもそも災害のときに始まったので、2番目にくると自然だと思う。

それから「翻訳機」にするか「機械翻訳」にするかで後で議論になると思うが、この話は対外国人の話だと思うので、これが先に来て、その後で翻訳、通訳という以外の外国人とのコミュニケーションにも役に立つという流れが良い。

前回は議論になった行政のコスト削減という話については、今回の話が主に対象とする行政及び行政の職員の負担軽減につながるというように、最後に来た方がもろもろのメリットによってコスト削減になるという順番にした。

【委員】

大きな方向性としては、外国人住民対応の話から入っていくこと、やさしい日本語は自然災害対応から始まっているので、前半に来ることは共通しているようだ。

ほかの委員はどうか。

【委員】

ミスリードしてはいけない1番、2番のところが合っていればよい。

【委員】

職員の負担軽減は結構大きいと思ったが、それは余り大きくなかったということに気付いた。そこはこれからの研修の内容の話合いとほかの何がメリットなのかというところがリンクするような気がする。

今の並びはこれでいいと思うが、この並びとこれから議論するであろう研修の内容の目的のところ結構大事につながっていくのではないか。

【委員】

翻訳に関する記載のダブリ感についても、意見をいただきたい。

【委員】

先ほどから何度も議論に出ているメインにたどり着くまでを短くしたいという提案なので、なるべくダブリ感がないように、記述をまとめた方がよいのではないかと。

【委員】

小項目の1と2は保留にして、3番目のポイント「外国人以外の相手とのコミュニケーションでも役立つ」について、意見をいただきたい。

【委員】

「話し言葉のやさしい日本語について学ぶことで、コミュニケーションの際の相手への気配りが身に付く。これらは、外国人相手だけに役立つのではなく、高齢者、障害者等の配慮すべき日本人に対して接する際にも役立つ」という部分について、すごく硬いと思う。高齢者、子供、一部の障害者など様々な方々に対してコミュニケーションを取るのに役立つというような話をするので、そういう方がよいと思う。あと、ここであえて「日本人」と言う必要があるのかと思う。

また、「気配り」という言葉が気になるとあるが、学ぶことで気配りについて身に付くようなマナー教室じゃないかという感じがして、我々が言うところのマインドであり、コミュニケーションである。そのマインドが外国人だけでなく、今いくつか出た様々な方々とのコミュニケーションに役立つという言い方の方がいろいろな人に対して有効だということが伝わるのではないかと。

今の書きぶりだと、スキルのなものが身に付くから、それが高齢者、障害者にも使えるように見えてしまうと思った。

【委員】

見出しの「外国人以外の相手とのコミュニケーションでも役立つ」はいいが、その説明文を変えたいということか。

【委員】

言い回しのところが気になる。「気配り」という言葉の使い方が少し気になるので、心掛けるポイントのような形でいいのかということと、あと「配慮すべき日本人」という表現が障害者、高齢者は「配慮すべき日本人」なのかということも非常に違和感があり、高齢者、障害者等の人を含む全ての人に役立つという書きの方がマイルドで、違和感を覚える人が少ないと思う。

【委員】

「全ての人」について、「全ての人」がいいのか、「様々な人」がいいのかという議論をすべきかと思った。「全ての人」というとやさしい日本語万能論のように感じ、引っかけた。

【委員】

やさしい日本語を学ぶことによって身に付くことを例で説明するような書きぶりがいいと思う。

【委員】

「日本人」、「全ての人」は使わないで、「等の様々な人」に修正するのでよいか。

【委員】

今皆さんが話していた流れで修正していただければ良いと思う。

【委員】

「全ての人」を「様々な人」に変え、「話し言葉のやさしい日本語について学ぶことで、コミュニケーションの際の相手に心掛けるポイントが身に付く。これは、外国人相手だけに役立つのではなく、高齢者、障害等の様々な人に対して接する際にも役立つ」でよろしいか。

第2の1の総論だが、「やさしい日本語の普及に当たっての視点」の最初に、「やさしい日本語には明確なルールやこれが正しいという言い方はない」と言い切っていて、そこまで言い切ると何のために留意事項があるのかという話になるため、「やさしい日本語には常に決まった一つの正解があるわけではない」と修正してはどうか。

それから、「機器の使用効果」だが、これは「機器の翻訳精度が向上する」に変えてもらいたい。

【委員】

最近の翻訳機器はやさしい日本語にしなくても普通に話せば対応できると技術者が言っていた。

例えば尊敬・謙譲語を外したらよいというガイドラインがあったとして、尊敬・謙譲語で話しても十分翻訳できる。

【委員】

それは英語以外の言語についてもか。

【委員】

少なくとも日本語の認識ができるということである。翻訳ができるかどうかはまだ次の段階なので、ここはもう少し軽めで、マインドを習得することによって相手に伝わるような話し方ができるようになるというところで、留意事項がそのまま翻訳の精度に反映されるというよりは、もうワンクッションあるというか、うまく言えないが、書き振りの問題を指摘した。

【委員】

ふだんグーグル翻訳やDeepLを使っているが、やさしい日本語にした方が間違いはないという印象である。

【委員】

やさしい日本語的な考え方のうち情報を整理するとか、主語をはっきりさせるとか、そういうことは機器が発達しても有効だと思うが、今回話し言葉で挙げていくようなポイント全部が、翻訳に役立つかという点と違うと思う。

だから、例えばやさしい日本語における整理された簡潔な話し方はとか、簡潔な文章はとか、心掛の部分については、翻訳とか通訳に役立ちますという話だと思う。

機械だけではなくて、例えば通訳とか翻訳というのは情報の整理ということと不可分なので、そこで短い文章、簡単な文章で話してもらえると人間の通訳、翻訳にとっても役立つと言われている。

【委員】

例えば「整理整頓された言い方は」という言い方にすると翻訳精度は上がると思う。

【委員】

ここはやさしい日本語万能論を排するために入れ替えて、「整理整頓された形で話しかける方が機器の翻訳精度が向上する」に修正したいと思う。

【委員】

職員が翻訳者や、ソフトとかの機械翻訳を過信して、外国人なら外国語で対応すべきだと思う職員が結構いる気がする。そこは、やさしい日本語と外国語対応の役割分担を決め、翻訳文とか、通訳者が来るまでの応急処置として、まずやさしい日本語でやろうと思ってくれるのはよいと思う。

【委員】

そういう通訳・翻訳サービスが準備できるまでの間に、まずやさしい日本語を使って情報発信をするとよいということをここで言ったかどうかということか。

【委員】

はい。

【委員】

「細かい内容や難しい情報を伝えるための通訳者（又は翻訳文）を確保できる時点まで、最低限の情報が伝わる様に」という今の案でよろしいか。

【委員】

はい。

【委員】

続いて、「負担軽減」は使わないで「行政コストの低減」の方がいいということか。

【委員】

職員の負担軽減でも伝わるとは思うが、それも含めていろいろな意味での行政コストの削減だと思うので、私的には対外的にも見栄えもよいところもある。職員の負担軽減も含めた行政コストの削減だと思うので、タイトルの「行政コストの削減」がいいと思う。

【委員】

行政の現場で働いていると、余り自分たちにメリットがあるということをはっきり書かれると、違和感というか、受け入れづらい。

【委員】

結論から言うと、「行政コストの軽減」の方がいいということか。

【委員】

はい。

【委員】

続いてメリットについて、「社会全体にとってメリットにつながる」は漠然とし過ぎている。何でもメリットというと広過ぎる感じもするが、多文化共生社会に資するということだと思う。

削除するかしないかだが、どうか。

【委員】

ここは先ほど議論になった外国人だけでなく、日本人にとってもよいという話を焼き直しているだけだと思うので、削除でよいと思う。

【委員】

短縮ということで、削除したいと思う。

「2 やさしい日本語の特性」に移りたい。

【委員】

「また、機械翻訳では時間が掛かり」からは、削除した方がよいと思う。

【委員】

私は前半の直接話すよりは翻訳機を使った方が、絶対時間は掛かると思うので、英語ならある程度対応できているというところが引かかった。むしろ職員が翻訳機に頼ってしまう、過信してしまうというところは残してもよいと思う。

【委員】

どのように書いたらいいか。

【委員】

英語以外が弱いとは言えると思う。

【委員】

前半を残すとして、「やさしい日本語で話しかける方が機械通訳の質を高めることができる」、これはさっきと同じ趣旨のため、変えた方がいいか。「整理整頓された形で話しかける方が機械通訳の質を高める」とした方がいいか。

【委員】

機械翻訳に頼り切ってはいけないという話を我々はしたいので、あえて英語とそれ以外

で分けて書く必要があるのかと思った。

【委員】

削除するというのではなく、もっとシンプルな文章にして、短くしてはどうかと思う。

具体的に言うと、先ほどの機械翻訳というところは全て削除してはどうか。否定表現を残すことは、国のガイドラインとして不適正ではないか。

【委員】

機械通訳に流れてしまうという危惧があるので、やさしい日本語にもメリットがあって、全てが機械通訳で済むわけではないと、短く一般的な話で残すのがよいと思う。

【委員】

全部削除ではなくて、「また機械通訳があれば話し言葉のやさしい日本が不要ではないかという指摘もあり得る。しかし、機械通訳では時間が掛かり会議の流れを損ねる場合があるなど、会話の全てを機械通訳で済まされるものではない」というようにつなぐということか。

【委員】

私は限界点と特性の部分が分かりにくいと思った。やさしい日本語万能論でもないし、機械翻訳を否定するわけでもないけど、人間が何の道具も使わずに話すことがシンプルで、かつ力強く早くできるということだと思う。でも、それは限界点でもあるわけだから、こちら側のメリット点だけを書いて、否定する文章の部分は削除でいかがか。

【委員】

大幅削除に賛成する。

一言だけで言うとしたら、「機械通訳があれば話し言葉のやさしい日本語は不要ではないかという指摘もあり得る」の後に「全てのコミュニケーションを機械通訳に通すと非常に時間が掛かるので、併用が望ましい」ではどうか。または全て削除でどうか。

【委員】

特性と例えば注意点とか、そういう形にして一緒に書いたらどうかと思う。

【委員】

ほかに意見がなければ削除することが一つと、新しいアイデアとして、小見出しの2と3はセットにすることでいいか。その上でタイトルとしては、修正した方がいいということか。

【委員】

特性と注意点と書くか、それがくどいのであれば特性でもいいと思う。

【委員】

限界は避けたいし、特性と限界だとよくないということですね。

内容に入って、その後に考えることとしたい。

【事務局】

コラムについて議論していただきたい。

【委員】

これはよく言われる批判だが、情報量を落としてしまうので、使えないことがあるという批判がよく出るが、やさしい日本語は相手の日本語能力に左右されるので、絶対にそれが伝わらないなんてことはあり得ないと思う。日本語能力90%ぐらいの人が相手であれば、十分普通のコミュニケーションは取れると思うので、書き振りを提案した。

【委員】

簡潔にテクニックの話じゃなくて、マインドの話である部分と、地域日本語教育と両輪であることを伝えたかった。

地域日本語教育については、機会提供、環境整備とか日本語学習の努力などが重要という話を「コミュニケーションや相互理解のために大事なもの」というコラムの中に入れたらよいと思ったので、地域日本語教育の話を入れた。

【委員】

ただ、「日本に住む外国人が日本語学習に努力」と書いたが、「努力」という言葉をこういうところで使うのは、何か余計な義務を課すような感じがするので、日本に住む外国人が日本語学習を進めるとか、日本語を学習することも同じように重要であるという表現でよいと思う。

○第3「留意事項」についての発言内容

【委員】

今回のタイトルにも関わってくるが、表現が硬いので、やさしい日本語で話すときのポイントのような言い方がよいと思う。

それと、ここが一番言いたいことだとすると、これを実際にウェブに乗せて活用してもらおう上では、ポイントのところだけ切り出して、例えば役所とかの研修で使ってもらえるような一枚紙、ないし表裏紙ぐらいにまとめられるとよいと思う。

【委員】

私も同様の趣旨で、重要なポイントを10個ぐらい箇条書に並べたものが手元にあれば、それを見ただけで心掛けることができると考えた。若しくは付録的な一枚紙などがあるとよいと思う。

【委員】

そうすると、報告書の全体の中でもレイアウトを工夫するとか、そのページだけ打ち出して使えるような独立したレイアウトということになる。それを巻末又は最後のページに置くようなイメージである。

【事務局】

今の話を聞いていると、この留意事項全体をコンパクトにしたようなものを一枚紙にし、付録のような形で一枚冊子にして、本文とは別にしたもので取りまとめるというイメージでいいか。

【委員】

本文というか、今回の報告書の最後の1ページか、あるいは本体の中でもその部分1ページだけを独立して使えるようなイメージだと思う。委員が前半で一番前に持ってきてもよいと言っていたが、そういう使い勝手がよいものかと思う。

【委員】

ただ今回事務局がレイアウトをすると考えたときに、例えばこの最後のところを目立つようにしておけば、別冊にしなくても、ここが大事なポイントだというのが分かると思う。

【委員】

別紙とかにする必要はなくて、あくまでもここだけ打ち出して使えるものであれば、本文の中に入っているのもよい。何か目立つように囲みがあればなおよい。

【事務局】

留意事項の順番等について議論いただきたい。

【委員】

総論の内容ではなく、小見出しが多いので、「1 総論」という見出しは置かなくてもいいと思う。もし「1 総論」という小見出しを取れば、2の留意事項もなくなり、そのまま1、2、3、4、5と進むので、そのようにしたいと思う。

その上で内容について、議論いただきたい。

【委員】

全体的に順番を入れ替えた方がよい。

ただ、事例のところが長くなってしまうので、短く切って話す、はっきり話す、最後まで言い切るとかについても細かく事例を一、二個でいいので、入れた方がよいと思う。

【委員】

ランダムに並び過ぎているので、何らかの意図を持って並べ替えた方がいい。

「リラックスして」と「落ち着いて」は違う意味合いだと思うが、ここを括弧でくくっているのは意図があるか。

【委員】

「リラックスして（落ち着いて）」になっているが、違和感はあるか。

【委員】

「リラックスして」というのは、意図的には外国人だと思って緊張しているところをリラックスしてという意図と、堂々と普通にしゃべっていかうという意図だと思う。

【委員】

分けると煩雑という気もするが、行を分けた方がよいということか。

【委員】

例えば落ち着いてリラックスして対応するならまだよいかと思う。

【委員】

落ち着いてリラックスしてというと、重複感がある。

【委員】

リラックスという言葉がここに要らないのではないか。

【委員】

「リラックスして」を取って、「落ち着いて対応する」はどうか。

【委員】

その案でよい。

【委員】

例文を入れるとそれだけ量は多くなり、多分1ページには入らないと思うが、その点は
どう考えるか。

【委員】

例がないと、適切に言い換えると言われても、何だか分からないと思うので、例は必要
かと思う。

【委員】

言い換えはあった方がよいので、簡単なものを厳選して行は増やさず、右側の空白に載
せるというのはどうか。

例えば、「可能性がないわけではない」とか、「ぼかぼかする」とか。

【委員】

留意事項は1ページにまとまり切らないかもしれない。その場合、まとめとして簡潔に
大見出しだけを並べたようなページが一つあって、それとは別に細かく事例が掲載された
ページがあってもよいと思う。

【委員】

一応ここはそんなに字数は気にしないで作って、それとは別に1ページか2ページに収
まるものを用意するということか。

全体の構成はよいが、もう少し中身を吟味したいという意見があった。何か気になると
ころはあるか。

【委員】

(6)の見出しのタイトルは「適切な言い換え」にしたいと思う。

【委員】

公表資料では（7）「アイコンタクトや相づちを打つ」の後ろの「（分かっていることを示す）」のタイトル部分だが、相づちは聞いていますよというサインなので、「聞いていることを示す」に修正したい。

「擬音語等オノマトペ」はしつこいので、「オノマトペ」だけに修正したい。

【委員】

ほかの点で気になったところはあるか。

【委員】

全体的なところで（8）の分量がほかのところと比べて少ない。

提案するとしたら、「（コミュニケーションボードの準備等）」であるが、実物を見せるとか、具体例を示したりすると分かりやすい。コミュニケーションボードについての説明が必要だと思う。

例えば、その現場でよく使う言葉とイラストや多言語翻訳文を並べておいたもので、指差せるような状況に作っておくもの。オノマトペを使わずに、分かるように絵を描き、それらを指差せるようにするなど、コミュニケーションを促進するような資料である。何ならこれはコミュニケーションボードのところに説明を加えるような形で1項目増やしてはどうか。

【委員】

「資料・写真・図や実物を活用する」という項目で、もう一つ新しい項目として「コミュニケーションボードを準備する」というのをもう少し説明を足すということか。

【委員】

コミュニケーションボードとは何かと言われたら何ですか。

【委員】

その場所で必要なもののリストを一枚の紙に収めたもの。

【委員】

コミュニケーションボードも知ってもらふ必要があると思うことから、図示したり、コラムでコミュニケーションボードの活用例を入れたらどうか。

【委員】

具体的なコミュニケーションボードを写真か何かイラストで載せる。

【委員】

例えば駅ではこのようなものを使っているとか、交番ではこのようなものを使っているなど、実際に使っているものを幾つか並べるとよいと思う。そうすると、言葉で説明する必要がなく、実際に「このようなものが使われているんだ。」と認識してもらえし、それを「使ってみよう。」と思う読者がいるかもしれない。

コミュニケーションボードとは何かというようなコラムを1個作ってはどうか。

【委員】

「コミュニケーションボードを準備する」に米印を付けてコラムで説明をするということか。

【委員】

今共有したものは、いつも私の研修で使っている資料で、これがコミュニケーション支援ボードの一つの例になる。

【委員】

委員の言っていたコミュニケーションボードとはこれと大体同じか。

では、「コミュニケーションボードの準備等」を一つの項目として独立させて「コミュニケーションボードを準備する」とする。その上でコミュニケーションボードを知らない人がいるかもしれないので、コミュニケーションボードの説明をコラムに入れて、コミュニケーションボードとは何なのかを示す写真かイラストを入れる。

【委員】

「指示語を使わない」は残すのか取るのか。

【委員】

指示語については削除すればよいと思う。

【委員】

具体的に見たことがあるのは、知的障害者向けのやさしい日本語に取り組んでいるスローコミュニケーション協会が、障害の種別でやさしい日本語の注意事項を書いているところ、長く記憶をとどめていられなかったり、長い文章についていけない人たちのために、指示語が途中で増えていくと、そもそもそれがどれを指しているのか分からなくなることだった。

そういう意味では、オノマトペと同じようなレベルで、まず話し言葉のやさしい日本語をやってみようという人たちがいきなりそこを注意するかというところと違うと思うので、ここからは落としても大丈夫だと思う。

【委員】

ほかに意見、異論がなければ、今回指示語は取る。

残った課題として、具体例を入れるかどうかで、入れるとしてもなるべく行が増えないようにするのがよいだろうという提案だった。別の委員の提案としては、留意事項の各項目にそれぞれ具体例を入れた方がよいということか。

【委員】

主には「適切な言い換え」のところである。

【委員】

言い換えで具体例がないと、どう言い換えるか分からないということか。

【委員】

コミュニケーションボードのコラムをここに入れようという話になったので、私は一個目のコラムをここに移した方がいいと言ったが、コラムは元の位置のままでよいと思う。

【委員】

コラムを移さなくてよいということは分かった。あと留意事項という言い方を変えるかどうか。

【委員】

やさしい日本語を話すときのポイントとか、やさしく話すためのポイントとか、そのような言い方がいいかと思う。

【委員】

ポイントの方がよいと思う。

【委員】

私も最初から留意事項は硬いので、代案をどうしたらいいかと思っていた。ポイントが有力になりつつあるので、留意事項はやめてポイントにしたい。

○「おわりに」及びタイトルについての発言内容

【委員】

やさしい日本語の書き言葉でよく言われる、読み手を具体的に立てろということだが、これは日本人向けに書かれているガイドラインなので、ここに突然外国人に何々というような話は入れない方が一貫するのではないか。

【委員】

外国人が話すときにも、話す方が達者ではないので、やさしい日本語的な話し方は有効であるという話を入れたが、方向性が錯綜するような感じになるので、今回の趣旨からするとこれは取ってよいと思う。

【委員】

ここは削除でいきたいと思う。

あと、「おわりに」のこの文章に関して意見はあるか。

【委員】

「日本人側は」という文言があるが、この「日本人側は」は多分「外国人側は」と対で作っていると思うので、ここであえて「日本人側は」という言葉を入れる必要はないと思う。

また、「うまくくみ取る練習や傾聴」というのも、日本人側と外国人を比較したときに意味が分からなくなってしまうのではないかと感じた。

【委員】

削除したときにその前の段落がうまく成り立つということか。

あと「テクニック」と書いているが、新しいポイントだと「テクニック」も使っていないため、ここだけ「テクニック」と言うのは唐突な感じがする。

「様々な日本語に対する寛容さ」というのは、結構大事だと思った。

【委員】

「日本人側は」、「やさしい日本語」、「テクニック」を取るとして、会話をしている相手の意図をくみ取ろうとする姿勢やということ。練習じゃなくて姿勢や様々なものに対する寛容さ、それぐらいの短さでどうか。

【委員】

「日本人側は」という主語は、このままで大丈夫か。

【委員】

主語は入らないが、「やさしい日本語を話す際には」でどうか。

【委員】

「やさしい日本語を話す際には、会話をしている相手方の意図をうまくくみ取る姿勢や拙さも含めた様々な日本語に対する寛容さも大切にすることがあるだろう」、これでどうか。

【委員】

議論を済ませて文字が最終的に決まった後で微調整は必要だと思う。

【委員】

基本的には私と事務局で仕上げ、委員に見てもらいたい。

【事務局】

これまでの議論を踏まえ、どのようなタイトルがよいかについて議論いただきたい。

【委員】

先ほどの留意事項となっている項目を全体のタイトルにも持ってくるのが基本だと思う。

「やさしい日本語で話すときのポイント」にするか、「やさしい話し方のポイント」にするかだが、「やさしい日本語」というワードは入れた方がよいと全体の議論を聞いていた。「やさしい日本語で話すときのポイント」がよいと今改めて思っている。

【委員】

最初の話し合いをしたときに、2020年の在留支援のためのやさしい日本語ガイドラインを参照するという趣旨は、引き続き持っておいた方がよいという結論に至ったと記憶している。そうすると、それとセットでこの冊子を考えるのであれば、原案の「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」を残しておいて、「話し言葉のポイント」というのを副題として付けるのがシンプルかと思う。

【委員】

私も残していいと思う。

【委員】

残して「やさしい日本語で話すときのポイント」ということでよろしいか。

今、「話し言葉のポイント」との意見があり、その2つの案になるかどうか。

【委員】

もし最初の「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」を残すのであれば、「やさしい日本語」というのに重複感がある。

【委員】

そうすると、「話し言葉のポイント」でよいと思う。

【委員】

私は「話し言葉のポイント」がよいと思った。

【委員】

並べてみると「話し言葉のポイント」がよい気がする。

「ガイドライン」を残すのは賛成で、ウェブでこれから検索をかけたときに「話し言葉」が出たなど一瞬で分かると思う。

【委員】

「話し言葉」という言い方が専門語チックかなと思ったが、最初のガイドラインで書き言葉に焦点を当ててと言っているなので、それとの対比、セットで使うという意味でも「話し言葉のポイント」でよいと思う。

【委員】

私も今、タイトルを見て、「話し言葉のポイント」で据わりがいい感じがしたので、異論がなければこれでいきたいと思う。

—了—